

## 海洋都市横浜 うみ博 2022

～見て、触れて、感じる 海と日本 PROJECT～  
船模型展示とワークショップ・ステージプログラム

期間：2022年8月6日（土）～8月7日（日）

会場：横浜市役所アトリウム 主催：海洋都市横浜うみ協議会

### 3年ぶりの開催で大きな盛り上がりのうちに終了

昆 政明

新型コロナウイルス感染症流行ため、2020年、2021年の2年間に中止されていた「海洋都市横浜 うみ博」が再開された。これまでの大棧橋会場から、主会場を新築された横浜市役所アトリウムに変更したため、会場面積は少なくなったが、本学ブース出展および日本常民文化研究所所蔵船舶模型の展示は、従来通りとなった。

展示スペースは正面入り口の部分が割り当てられ、横浜市より要望のあった近藤友一郎氏が作成した大型和船模型2点と中国で作成した明清時代の廻船模型、あわせて3点を展示した。これらはいずれも縮尺10分の1で製作されたもので、全長3メートル前後、実長30メートルの大きさとなる。会場全体がこれまでより狭くなった関係で、模型の展示スペースも縮小されており、これまで



写真1 美術品専用車で専門業者が搬出



写真2 組み立て前の菱垣廻船



写真3 和船研究会員の協力を得て菱垣廻船の組み立て



写真4 配置と組み立てが終わった状況



写真5 慎重にホコリなどを払う

展示してきた小型模型や解説パネルは割愛した。また、感染対策を考慮して模型の間隔を広く配置し、じっくり観察してもらいつつ、状況に応じて解説や、質問に答える体制を整えた。模型の組み立ては、従来通り所員の昆政明とボランティアとして昆研究室の主宰する和船研究会のご協力をいただいた。

模型展示会場に隣接したステージで、さまざまな催しが行われたが、ステージイベントとしては初めての試みとして、クイズ形式の「楽しく学ぼう！海・船・港」を開催した。主に子ども向けのクイズを出題、正解発表の後、クイズの答えの解説を行うといった構成であり、図解や写真、動画を多用して分かりやすくなるよう工夫した。例年実施しているワークショップ「折り紙で帆掛け船をつくろう！」も展示会場とは別スペースで行い、過密にならないよう注意しながら実施し、それぞれ多くの参加者から、高評価をいただくことができた。

これらの実施に当たっては、学生有志の協力が大きな力となった。クイズの司会進行のシナリオ作りや司会なども担当し、模型の解説についても、事前学習と現地研修を行い、和船研究会の方々のバックアップの下、来場者の方々とふれあう貴重な体験を得ることができた。



写真6 和船と中国船のちがいに興味が集まる